

KITE SOCIETY

THE 9 TH

CONCERT

プログラム

ごあいさつ

春になると全国からカイトの仲間が集まって来ます。
そんなカイトソサィエティも今年で10年目。第9回の
演奏会をもつ事ができますのは皆さまの力強い心づか
いのおかげさまと深く感謝いたします。
年々変動する世にあって歌う心の豊かさだけは失いた
くないと、こよいもステージに立って精一ぱい歌いま
す。なにとぞ暖かく御声援ください。

カイトソサィエティ 第9回定期演奏会

1974. 3. 28 (木) P M6:30

勤労者福祉センターホール

1. 中勘助 作詩 多田武彦 作曲

男声合唱組曲「藁科」

指揮 塚田辰己

- I はつ鮎
- II 筍
- III 西ふきあれて
- VI めし
- V 雨も悲し

2. バルトーク 作曲

「五つのスロバキア民謡」

指揮 塚田辰己

3. 恩田幸夫 作詩 平井康三郎 作曲

男声合唱のための組曲「若人はうたう」

賛助・長野高校合唱班

- I 雑草
- II 一本の檜の木
- III この道はどこへ
- VI ビルの屋根から
- V 山の仲間

4. 阪田寛夫 作詩 大中恩 作曲

男声合唱組曲「わが歳月」

指揮 山本昇

- I 我が二月
- II 春
- III 空谷
- VI 葉月のお月
- V 十月
- IV 音立てて

「藁科」

男声合唱を経験した者ならば、一度は多田武彦の作品を歌った事があるかと思えます。我々も好んで歌ったものです。反面その作曲技法が同一傾向にあるためか、あきられたりする事もあるようです。しかし男声合唱のハモリを良く心得た作曲と共に、叙情性を加味した作風は捨てがたい魅力があります。多田武彦は「中勘助の詩から」など中勘助の詩に好んで作曲しているが、その孤高清澄ともいえる作風は多田武彦のもつ叙情性にマッチするものであるためでしょうか。

「バルトーク」

ハンガリーの生んだ20世紀最高作曲家の一人であるバルトークについては、いまさら説明は不用でしょう。しかし彼の作品が合唱曲にも多く見出される事はあまり知られていないようです。彼の生まれた地の民族性と独特の音階に対して私たち自身ずい分苦勞して演奏した経験をもっています。今回「五つのスロバキア民謡」にバルトークが注ぎ込んだ民族性と精緻な近代感覚をどの程度に演奏できるかお聞きください。

「若人はうたう」

この曲は昭和44年12月に中央大学グリークラブによって初演されました。現代の複雑な世相の中で孤独感に陥る若者が新しい目標を立てて成長してゆく姿を描いています。新しきやういメロデーで作曲されているこの組曲は詩の内容と共に我々の心情を克明に表現しています。

「わが歳月」

昨年の「走れわが心」に続いて今年も大中恩の作品をとりあげます。彼の作品はその数からいっても合唱団のレパートリーからはずす事のできないものですが、そのほとんどが混声合唱曲となっています。この「わが歳月」は男声合唱界に大中恩を位置づけた明星といっても大げさではないでしょう。大中恩のもつ人間性はどの曲にも何か新しいアイデアをもって表現されています。そしてこの作品の魅力は大中恩特有の、深く社会性に根ざしたものからかもし出されるユーモアにあるといっても過言ではないでしょう。

山本昇先生 (指揮者)

お忙しい時間をさいて毎年カイトのために指揮をとってくださる先生。カイトの仲間は先生の棒に魅せられて毎年集まってくるのです。カイト創立以来からずっとお世話いただきながら何の恩返しもさせていただけていないのが私たちは心苦しくおもっています。現在、SBCアンサンブルの指揮者をはじめ、高田木曜会合唱団、長野市民合唱団コールアカデミーの指揮者として活躍されています。

塚田辰己 (指揮者)

今年は長男が歩き始めたとか。いつの間にか勉学と亭主の座と、父親の座を見事に連立させて、かつ合唱活動にはりきっています。市民合唱団では夫妻で練習に通い、うらやましがられているそうです。現在 信州大学男声合唱団コリフェーエを指揮しています。

長野高校合唱班 (賛助出演)

カイトソサィエティ 第1回定期演奏会から賛助して、年々変化する団員をかかえて毎年はつらつとした合唱を聞かせています。昨年は17名でしたが、今年は27名と増え力強いハーモニーを響かせてくれる事でしょう。

須田克弘 (会長)

彼が会長らしく姿を見せるのは毎年3月。カイトソサィエティ 最古参の1人です。第1回の定演の際には禁煙をしてまでも成功させたのがいつしか語り伝えられるようになりました。この会長とカイト最年少者とは15年の年令差があると聞いております。

堀内征治 (事務局)

カイトの原動力。高専の教鞭をとるかたわらカイト仲間の連絡事務にかなりの働力をおしみなく使われています。合唱好きの奥様と結婚されてずい分経ちました。彼の合唱活動は広く、カイトの他にも2つの合唱団において技術的に中心となって活躍しています。